



【こばやし ななえ さん】 錦町
●千歳科学技術大学大学院1年生。大学1年生から「理工科工房」に所属。昨年からは、工房の仲間5人とともに市内の小学校で理科の実験を手伝う理科支援員としても活躍している。

見て、聞いて、触って。
科学の楽しさ、教えます！

「理工科工房」の取り組みや行事などのお知らせは、ホームページ
(http://www.geocities.jp/chitose_rikakobo/) をご覧ください。

学

校や児童館のほか、市内で開催される行事などで、理科実験の出前授業や工作教室を行い、小中学生を中心に科学の楽しさを伝える活動に取り組む学生がいます。

千歳科学技術大学の学生団体、「理工科工房」。現在28人の部員が、年間50回以上の活動を行っています。

小林さんは、この活動に熱心に取り組むひとりです。「この大学ならではの活動に参加したかった」と、入部したきっかけを話します。最初のうちは、会場に集まる方への接し方がわからず、不安でいっぱいだったそうです。

「大学の講義で学ぶような難しい内容を小中学生にそのまま話しては、だれも聞いてくれません。透明な物が光つ

たり、色が変化したり、音がしたり、目や耳などの五感に響く体験をおしで、まずは興味を持ってもらうことが大切です」と話します。

本などを参考に活動の内容を考え、材料をそろえるだけでなく、言葉使用や決まった時間の中で進行する方法など、子どもの心を引きつけるために気をつけることはたくさんあります。

活動の準備に熱中し、気づけば夜遅くになっていることもあります。それでも「準備に時間をかけるほど、子どもたちの反応が大きくなります。集まる子どもたちのため、手は抜けません」と力強く語ります。

目の前の不思議な体験に引き込まれた子どもたちは、目を輝かせ「なぜそ

うなるの？」とつぎつぎに質問を投げかけます。

「小中学生から見れば、私たちはなんでも知っている大人です。わかりやすく説明するには、踏み込んだ知識が必要で。引きつけた心を離さないようにきちんと答えます」と話します。

活動に参加して5年目の小林さん。いずれは卒業するため、続けられる時間は限られています。「5年前の小中学生が、あと数年で大学に入学する年齢になります。そのときの入学生の中から『つぎの世代の子どもたちに、科学の楽しさを伝えたい』という想いを持った学生が現れ、この活動をこれからもつなげてくれたら嬉しいですね」と明るいままなさしで語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



小林

NANAE
KOBAYASHI

菜々絵

さん